

普及活動情勢報告（令和2年8月分）

高吾農業改良普及所

養液栽培の大玉トマト、ミニトマトの栽培が始まった。



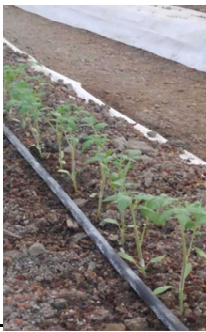
日高村の基幹品目である大玉トマト、ミニトマトの定植が7月28日から始まりました。育苗が梅雨の時期で梅雨明けも遅かったため、苗質としては徒長苗、肥切れの状態でした。定植1週間後には苗の状態も落ち着き、節間も詰まり良質の株となってきています。

農業改良普及所では、定植前に、定植時の給液ECの設定や排液率について勉強会を開催し、定植後は株の生育状況に応じたかん水及び施肥管理について助言しました。

生産者からは「はじめ、苗の状態が良くなかったが徐々に良い感じになってきている」との声が聞かれました。

農業改良普及所は、生育状況を確認し、適期に栽培管理指導を行います。

促成高糖度トマトの定植始まる。



農業改良普及所管内の基幹品目である高糖度トマトの定植が8月7日から始まりました。定植のピークは8月17日から24日です。販売額が高単価で取引される時期が年々前進化してきているためか、今年の定植時期は昨年に比べると1週間早くなっています。高糖度トマトは定植1ヶ月間のかん水方法の仕方が高糖度率に影響するため、農業改良普及所では、早朝から各生産者のハウス（20戸）を巡回して、1日に与えるかん水量を葉露の状態などで確認し、指導しています。

農業改良普及所では今後も高糖度トマトの安定生産に向け支援していきます。

加温機は定期的にメンテナンスしましょう！



8月7日、コスモスニラ生産部の月例会が開催され、14名の生産者が出席しました。

JAから販売実績の報告や、コロナ対策の事業についての説明、農業改良普及所からは早刈りへの注意やさび病の対策についての情報提供を行いました。その後、ネポンの技師を講師に招き、加温機のメンテナンスについての講義と現地研修を行いました。出席した生産者からは、「今まで全くしていなかった」「毎年メンテして長く使いたい」などといった反応がありました。

農業改良普及所では、今後も栽培技術指導だけではなく、省エネ対策による経費節減なども助言指導を行います。

別枝集落のビジョンを考えよう！



7月31日、仁淀川町別枝集落の有志10名が集まり、集落ビジョンを考える会が開催されました。

農業改良普及所は以前にワークショップで出された意見を紹介し、仁淀川町地域本部の進行で、一人一人から思いを聞きだしました。「今行動しなければ、地域は消えてしまう！」「人を呼べる対策が必要！」「茶畑を守りたい！」等の強い意見が出され、全員で確認しました。

農業改良普及所は、出された意見を実現に近づけるために9月に集落営農塾として鹿児島県「やねだん」から講師を招き講演会及び意見交換会を開催します。

毎月の資金管理を考えよう



7月31日、農業改良普及所で経営管理研修会を開催し、ニラ女性農業者6名が出席しました。

簿記データから、月別の農業収支と借入金返済額、家計費を考えて、各自の経営実態をグラフ化して把握しました。家計費を含めた資金管理を考えるきっかけになりました。

アンケート結果では、「経営が数字を通してはっきり見えたので良かった」「マイナスの月が多かったので、収入を増やしたい」などの回答がありました。

農業改良普及所は、今後も女性農業者の栽培技術の向上や作業場の改善などの内容で計画的に講座を開催します。